



能登やさしいこめづくり情報

中干し・除草編

田植え後1か月経過したら、 中干し開始で品質向上！！

令和6年5月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A は く い

1 生育概況

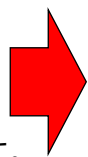
- ・本年の中能登管内の田植え作業は、震災の影響により一部の地域で遅れがみられるものの、前年より2日遅い4月29日に始期(全体の進捗 5%)、1日遅い5月5日に盛期(全体の進捗 50%)を迎えました。
- ・5月17日の生育調査の結果、前年と比較し、草丈はコシヒカリで短く、ゆめみづほで長く、ひやくまん穀は同程度でした。また、葉数はコシヒカリ、ゆめみづほとともにやや少なく、ひやくまん穀は同程度でした。
- ・5月後半の気象は平年よりも気温が高い見込みで、中干しの実施時期も早まる可能性がありますので注意しましょう！

2 中干し適期開始について

『中干し』は米の品質や収量を左右する**重要な管理作業**の1つです。

中干しの効果

- ・無駄な分げつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。
- ・秋の実りに働く根が発達し、根の活力が高まります。
- ・過剰な窒素の取り込みを抑制し、倒伏を防ぎます。
- ・田面が固くなり、秋にコンバインで収穫しやすくなります。



乳白粒(白未熟粒)やくず米の発生減少



乳白粒(白未熟粒)

◆中干し開始までの水管理

- ・浅水管理(水深1～3cm)で分げつの発生を促します

早期に有効茎(充実した穂となる茎)を確保するため、浅水管理(水深1～3cm)で水温・地温を高めましょう。

- ・晴天時には「軽い田干し」を行い、中干しの開始に備えましょう

軽い田干しとは土の表面が乾かない程度に通排水することで、特に有害ガス(わき)が多いほ場では積極的に実施してください。用水の利用が限られる場合は、用水を利用できる前日に干すなど、計画的に行ってください。

◆中干しの実施

田植え後1か月で中干し開始！

- ・中干し開始時期の目安

品種	開始時期		終了時期	開始時期判断の注意点
	1株当たり茎数	平年		
早生品種	16本	6/7頃	6/25頃	①田植え後1か月、または、②左記の茎数に達した時期のいずれか早い方にあわせて実施し、額縁や滞水する箇所には溝切りを実施してください
コシヒカリ	14本	6/5頃	7/5頃	
ひやくまん穀	14本	6/5頃	7/15頃	
(根拠)	目標穂数 ^{早生 24本 他 21本} の70%時点		幼穂形成期	



【中干し開始の目安の株】

- ・中干しの程度

ほ場条件	程度と方法	開始時期と継続期間	注意点
一般田	田面に小さなヒビが入り軽く足跡が付く程度	※上記のとおり	葉色が濃い場合や分げつの発生が止まらない場合は、期間を超えて中干しを継続してください。
高地力田・湿田・生育過剰田	強め(大きなヒビを入れない程度)	一般田よりやや早めに開始、やや遅めに終了	
漏水田・砂質田・用水不足地域	田干し程度	一般田と同様	

◆溝切り作業の実施

溝切りの効果

- ・迅速な通排水ができ、中干しの効果が高まります。
- ・登熟期に迅速なかん水ができ、飽水管理を手助けします。

- ・溝切りは、額縁及び10条に1本の割合で実施しましょう。
- ・溝と溝、溝と排水口（水尻口）は、しっかりと連結しましょう。
- ・田面をある程度固く（落水2～3日後）してから溝を切り、6月中旬頃に同じところを再度切り直しましょう。



3 中間追肥の施用

中能登の問題

- ・高温や日照不足等の異常気象が続発傾向
- ・稲体が異常気象に強くなるためのリン酸やケイ酸が少ない

収量・品質の
低下要因につながる

対策!! 異常気象に強い
稲体づくりのため、
中間追肥を必ず施用しましょう！

施用時期	肥料名	施用量	効果
6月中旬 ～下旬	PK けいさん (0-13-11 ケイ酸 17)	40 kg/10a	・基肥一発肥料のリン酸・カリの供給補正 ・稲体が強固になり、病虫害抵抗性や耐倒伏性が向上 ・根張りや受光体勢が良くなり、登熟が向上
	エスアイ加里 カリ投げくん	4 kg/10a (200g×20 個) ※5cm以上の湛水で施用	

※「BB けい酸パワー・コシー発くん」(ケイ酸 12%配合)以外の肥料(有機入り能登コシー発、新早生一発くん、ひやくまん穀一発くん等)を使用した場合は、リン酸やカリ、ケイ酸が不足するので、必ず施用しましょう。

4 ほ場周辺の雑草地の除草

◆除草の徹底によりカメムシ生息数を減らし、斑点米被害を未然に防ぎましょう！

- ・斑点米カメムシ類による品質低下が、能登産米の大きな課題となっています。斑点米による落等を未然に防ぐため、農道や雑草地の除草を徹底し、斑点米カメムシの生息場所をなくしておくことが重要です。

ポイント1 斑点米カメムシの生息数を減らすため、6月中にほ場周辺の草刈りを徹底！

ポイント2 7月上旬に仕上げの除草を実施！ **一斉除草期間：7月3日(水)～7月10日(水)※出穂前**

ポイント3 7月11日以降は除草しない！（頻繁に除草している場合に限り、継続除草は可能。）

※7月中旬以降の除草は、カメムシをほ場内へ追い込む事になります。止むを得ず除草する際は、薬剤防除直前に行いましょう。

5 中・後期除草剤使用について

- ・カメムシの侵入抑制のため、ほ場内にも雑草が残らないようにしましょう。

対象雑草名	除草剤名	散布量	使用時期・方法
ノビエ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ 等	アトリ1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後14日(稲5葉期)～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
ノビエ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ 等	ワイドショット1キロ粒剤 2成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後15日(稲5葉期)～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
ノビエ	ヒエクリーン1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後15日～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ 等	バサグラン粒剤 1成分	3～4 kg/10a	落水して散布(スポット処理可能)、移植後15～55日(収穫60日前まで)
水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ 等	ブイゴールSM1キロ粒剤 3成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後15日～ノビエ3.5葉期(収穫60日前まで)

【重要】ブイゴールSM1キロ粒剤は薬害回避のため、気温が上昇してくる朝や高温時、6月に入ってから散布はしない。

6 その他注意事項

- ・補植用苗のは場内放置は、いもち病の発生源となるので、早急には場から取り除き、処分してください。
- ・病虫害や雑草が発生した際には、随時防除対応が必要となります。能登米栽培こよみに無い農薬の使用にあたっては、最寄りのJAもしくは中能登農林総合事務所にご相談ください。